

篠山城跡お堀でのアカミミガメ駆除～根絶の可能性を探る～

谷口真理・上野真太郎・三根佳奈子（(株)自然回復）

兵庫県篠山市の篠山城跡の南堀には観光名物のハスの花が咲いていたが、年々その数が減少し、2006年には完全に消滅した。市ではハス消滅の原因をミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans*（以下、アカミミガメ）の食害によるものとし、2014年にハスの再導入に向けて、アカミミガメ防除調査を開始した。翌年2015年からは、行政、市民、研究機関、事業者からなる農都ささやま外来生物対策協議会を設立し、産学官民が一体となった防除に取り組んでいる。

アカミミガメの捕獲は、主に淡水ガメ捕獲専用の誘因罠を用いて実施し、2014年に南堀を対象に始まった防除調査は、2015年には防除対象を堀全域に広げ、2017年までの4年間で1004匹のアカミミガメを捕獲した。除去法により推定したお堀全域のアカミミガメ生息個体数から駆除率を求めると、90.1%となり、お堀の多くのアカミミガメは駆除できたものと推測された。ところが、お堀全域で目視確認できるアカミミガメの個体数は2014年、2015年と減少するものの、2016年以降は50匹前後で頭打ちとなった。現在は、誘因罠に加えて、アカミミガメが日光浴する習性を利用した日光浴罠を常設し、駆除を実施している。今後は、誘因罠に入らないあるいは入りにくいカメを捕獲する手法の開発や現在の手法を改良し、アカミミガメの根絶やハスの復活を目指し調査していく予定である。



誘因罠

罠内にアジなどの餌を入れて誘因



日光浴罠

日光浴をする習性を利用し捕獲